

H22—一般178
2010年7月21日

関 係 各 位

公益財団法人 大学コンソーシアム京都
理事長 八 田 英 二
〔公印省略〕

「第8回SDフォーラム」の開催について（ご案内）

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、当財団の事業に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、大学コンソーシアム京都では、今年度も「SD フォーラム」を開催する運びとなりましたので、ご案内申し上げます。このSD フォーラムも今年度で8回目を迎えることとなり、引き続き、職員の情報交換の場としてご活用いただければと考えておりますので、関係各部署等に広く周知いただきますようお願い申し上げます。

なお、フォーラムの詳細につきましては、別添の開催案内をご覧ください。

今後とも、当財団の事業へのご理解・ご協力を賜りますとともに、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

- ①テ ー マ：「協働」から生まれる職員の職能開発
- ②日 時：2010年10月17日（日）10時～17時30分
- ③会 場：キャンパスプラザ京都（京都市下京区西洞院通塩小路下る）
- ④対 象：大学職員の人材育成や人事政策に関心のある大学・短期大学の教職員
- ⑤構 成：第1部 基調講演、第2部 分科会（6分科会）、第3部 交流会
- ⑥定 員：基調講演 180人（先着順）、各分科会 30名（先着順）
- ⑦受付期間：8月6日（金）～9月10日（金）
- ⑧申込方法：別添の「開催案内」を参照してください
- ⑨参 加 費：《非加盟大学・短期大学》5,000円、《加盟大学・短期大学》3,000円

問合せ先：公益財団法人 大学コンソーシアム京都
高等教育研究推進事業部（担当：中曽）

メール：sd@consortium.or.jp

電 話：（075）353-9163

F A X：（075）353-9101

第 8 回 SD フォーラム

テーマ：「協働」から生まれる職員の能力開発

大学コンソーシアム京都では、2003 年度より大学マネジメントに関する公開研究会や SD フォーラムに取り組むとともに、2004 年度からは「大学アドミニストレータ」を「大学をとりまくステークホルダー（学生・父母・企業・政府・地方公共団体・NGO・NPO 等）のニーズを把握し、トップマネジメント の意思決定を支えながら、構成員や関係諸機関との調整を行い、大学における目標設定やその具体化を図る能力を持つ職員」と定義し、その育成にむけた研修プログラムを実施しています。また、2006 年度からは、高等教育に関する諸課題と共に、大学の未来を考える取り組みとして「大学みらい塾（旧職員のための大学セミナー、2009 年度改称）」を開催し、2009 年度からは、職員の能力開発の動機づけを図るため、若手職員を対象とした「SD ガイドブック」の作成・頒布を行っています。

8 回目を迎える今年度の SD フォーラムでは、組織としての成果を考えるキーワードとして「協働」に注目し、全体のテーマを「協働」から生まれる職員の能力開発とし、基調講演を行うとともに、6 つの分科会を設け、教職協働・地域協働（連携）・職職協働について、先進的な取り組みを行っておられる大学より事例報告をいただき、大学における協働が切り開く職員能力向上の可能性について多角的に検討します。また、各分科会での検討後には、参加者全員が交流できる機会を設け、この SD フォーラムで得られた成果を今後の個別大学・短期大学における人事政策や人材育成に活かしていただくことを目指します。

【開催概要】

日 時：2010 年 10 月 17 日（日）10 時～17 時 30 分

会 場：キャンパスプラザ京都

京都市下京区西洞院通塩小路下る（JR 京都駅ビル駐車場西側、ビックカメラ前）

対 象：大学職員の人材育成や人事政策に関心のある大学・短期大学の教職員

（その他、上記内容に関心のある方でしただなたでもご参加いただけます。）

定 員：基調講演 180 人（先着順）、各分科会 30 名（先着順）

申込期間：加盟大学・短期大学先行申込み受付 7 月 23 日（金）～8 月 5 日（木）

※加盟大学・短期大学先行申込み期間後も 9 月 10 日（金）までは、受付いたします。

非加盟大学・短期大学等申込み受付 8 月 6 日（金）～9 月 10 日（金）

定員に達した場合は、参加申込みができませんので、ご了承ください。

申込方法：下記の URL、もしくは「公益財団法人 大学コンソーシアム京都」ホームページの「第 8 回 SD フォーラム」のバナーから、「メールアドレス確認フォーム」にアクセスし、メールアドレスを入力してください。ご入力頂いたメールアドレスに「SD フォーラム参加申込フォーム」の URL をお送り致しますので、そちらで引き続き入力を行って頂きます。なお、「参加申込フォーム」の URL をお知らせするメールがお手元に届かない場合は、メールアドレスに誤りがある等の可能性がございます。再度、「メールアドレス確認フォーム」に正しいメールアドレスを入力して下さい。また、申込手続き完了後の変更は、受付けることが出来ませんので、ご注意ください。お申込み手続き完了後に「申込み完了メール」をお送り致します。翌日になってもお申込み完了メールが届かない場合は、大学コンソーシアム京都までお問い合わせ下さい。

7月23日（金）～8月5日（木）の期間は、「公益財団法人 大学コンソーシアム京都」に加盟している大学・短期大学の先行申込期間となっておりますので、この期間は、非加盟大学・短期大学等の方は、お申込みできません。あらかじめご了承ください。

URL <https://event.consortium.or.jp/sd8/>

参 加 費：加盟大学・短期大学 3,000円

非加盟大学・短期大学等 5,000円

参加費は、当日の資料費、報告集、webシステム運営費、通信費等の諸準備費に使用致します。いかなる理由があっても参加費の返金には応じられませんので、予めご了承ください。参加費の振込み後に、やむを得ず参加されなかった方につきましては、後日、「第8回SDフォーラム」の当日の資料等を送付致します。

参加費の振込み：申込み手続きが完了した方には、後日、郵送にて払込票（請求書）をお送りいたしますので、最寄りのコンビニエンスストアで参加費の振込みを行ってください。取扱い可能なコンビニエンスストアは、同封している払込票の裏面を参照してください。

なお、銀行（ゆうちょ銀行・ネットバンク含む）等の金融機関からの振込みはできませんので、ご注意ください。また、申込み手続きと参加費の振込みが完了していない方は参加できませんので、ご注意ください。

振込締切日：2010年9月21日（火）24時まで

参 加 証：参加費の振込みが完了した方には、9月下旬に参加証をメールにて送信します。10月5日（火）になっても参加証（メール）が届いてない場合は、大学コンソーシアム京都までお問い合わせください。当日は、送信された参加証（メール）を各参加者がプリントアウトして持参し、受付に提示してください。

なお、当日、代理の方が参加される場合は、受付にお申し出ください。

そ の 他：報告集は、2011年2月下旬に参加者全員に郵送を予定しています。

申込み・問合せ先

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 高等教育研究推進事業部 SDフォーラム事務局（担当：中曽）

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都

TEL：(075) 353-9163 FAX：(075) 353-9101 E-mail：sd@consortium.or.jp

URL：<http://www.consortium.or.jp/>

「公益財団法人 大学コンソーシアム京都」は、月曜日が休日ですので、ご注意ください。

本年7月1日より「財団法人 大学コンソーシアム京都」から「公益財団法人 大学コンソーシアム京都」に変わりました。

－ プ ロ グ ラ ム －

9時30分～

受付開始

10時～12時

第1部 基調講演

講演テーマ：「協働」が職員力を高め大学を元気にする

講師：横田 利久 氏（中央大学 合併推進本部 担当部長）

教職協働、職職協働、地域連携などの「協働」が、いかにSDを促進し職員の個人的・組織的力量＝職員力を高め、学生をひいては大学全体を元気にすることに貢献しているか。いくつかの大学の事例や自らの仕事体験をもとに私が気づいたこと学んだこととお話することによって、「協働」の在り方を多面的に考える材料を提供したい。

13時30分～16時

第2部 分科会

分科会 A 教職協働の基礎としてのインストラクショナルデザイン

報告者：鈴木 克明 氏（熊本大学 大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻
教授・専攻長）

内容の専門家である大学教員と協働するためには大学職員は教育方法についての専門性を持たなければならない。そんな思いで現職大学職員と企業内教育担当者を主な対象として始めたインターネット型大学院で学べる、すべての教育内容に使える科学的な教育方法「インストラクショナルデザイン」の基礎を解説する。何をどのように学べるのか、また全国各地の大学職員が何を学びそれを仕事にどう活かしているのかを紹介したい。

分科会 B 教職協働のイメージと実際

報告者：高村 麻実 氏（大手前大学 教務部長・教学運営室長 総合文化学部 教授）

「教職協働」ということばをよく耳にしますが、明確な定義があるのでしょうか。「教職協働」の「職」とは、誰を指すのでしょうか。大学には教員と職員がおり、相互に協力してこそ業務が成り立つのであるのに、わざわざ「教職協働」などという必要があるのでしょうか。

それぞれが思い描いているイメージを整理し、あるべき「教職協働」の姿について考えていきましょう。

分科会 C 地域とのコラボレーション：組織間コラボレーションの一端

報告者：佐々木 利廣 氏（京都産業大学 経営学部 ソーシャルマネジメント学科 教授）
中上 ゆかり 氏（京都産業大学 図書館 館員）

「協働」が様々な分野でキーワードになりつつあります。しかしその実態は多様であり、イメージが先行しているケースも多いように思われます。この分科会では大学と地域のコラボレーションを組織間コラボレーションの視点から考えながら、どのような段階を経て協働は進んでいくのか、協働を進めるうえで大学職員に必要な能力はなにか、さらにはどのような結果や成果をうみだすか、などについて意見交換する場になればと思います。

分科会 D 地域密着型授業の実践による人材育成
ー西本願寺門前町のまちづくりのケースー

報告者：井口 富夫 氏（龍谷大学 経済学部 教授）

龍谷大学では、「地域活性化プロジェクト」と称して、フィールドワークを重視した地域密着型の授業を平成 13 年度より実施している。これは、新たな教育の試みでもあり、大学の社会貢献の一環でもある。

「自分で考える、みんなで考える」をキャッチフレーズに、受講生各自が地域の実生活から「何か」を学ぶことを目指している。本報告では、西本願寺門前町のまちづくりをテーマとして報告者が担当しているプロジェクト型授業の内容紹介とともに、参加者と議論を交わすことによって、大学職員の人材育成に少しでも役立つことを願っている。

分科会 E プロジェクト型業務が職員を変えるー人材育成の取り組み

報告者：三浦 暁 氏（早稲田大学 人事部 人事課長）

高等教育を巡る環境が急速に変化する中で、大学が個性を発揮していくためには、職員業務を、従来の管理型業務から新たな価値を生み出す創造的業務にシフトすることが求められます。早稲田大学では、プロジェクト型業務を経験することとおして、自ら企画・提案し、実行できる力量を備えた職員の育成を図っています。この取り組みを紹介し、共に考察したいと思います。

分科会 F 京都高等教育センター「SD研究」プロジェクトのあゆみ

ー5年間の研究からみえてきたもの・まだみえてこないものー

報告者：山崎 その 氏（京都外国語大学 学長事務室 室長）

SDとは職員の専門性を高めることなのでしょうか。職員の専門性が向上すれば教職協働が可能になるのでしょうか。大学は協働のためにSDをするのでしょうか。SDの情報が増えれば増えるほど、SDの目指すものが何なのかわからなくなってきました。皆さんの頭の中にも、たくさんのハテナ(?)があるのではないのでしょうか。後半では、最近注目のワールドカフェという手法を使って、これからのSDについて参加者全員で対話したいと思います。

16時15分～17時15分 第3部 交流会

2010年7月29日

関 係 各 位

公益財団法人 大学コンソーシアム京都
高等教育研究推進事業部

第8回SDフォーラム分科会の変更とお詫びについて

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、当財団の事業に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、先日、第8回SDフォーラム開催のご案内を差し上げましたが、分科会D「地域密着型授業の実践による人材育成」において、報告者の都合により報告ができなくなりました。

つきましては、下記の通り報告者及び報告内容に変更が生じたので、訂正すると共にお詫び申し上げます。

また、関係各部署等にご周知いただきますよう併せてお願い申し上げます。

第8回フォーラム開催の詳細は、公益法人 大学コンソーシアム京都のホームページを参照していただければ幸いです。

今後とも、当財団の事業へのご理解・ご協力を賜りますと共に、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

旧 分科会Dテーマ：地域密着型授業の実践による人材育成
－西本願寺門前町のまちづくりのケース－
報告者：井口 富夫 氏（龍谷大学 経済学部 教授）

新 分科会Dテーマ：地域密着型授業の実践による人材育成－南山城村の地域再生のケース－
報告者：伊達 浩憲 氏（龍谷大学 経済学部 現代経済学科 教授）
報告内容： 龍谷大学経済学部のゼミや「地域活性化プロジェクト」では、フィールドワークや問題解決を重視した地域密着型の授業を実施している。これは、地域との「協働」による新たな教育の試みでもあり、大学の地域貢献の一環でもある。
「現場に行き、現場で考える」をスローガンに、受講生各自が、「地域の再生のために学生に何ができるか」を学ぶことを目指している。本報告では、南山城村の地域再生をテーマとして報告者が担当しているゼミの内容紹介とともに、参加者と議論を交わすことによって、大学職員の人材育成に少しでも役立つことを願っている。

以上

問合せ先：公益財団法人 大学コンソーシアム京都
高等教育研究推進事業部（担当：中曽）

メール：sd@consortium.or.jp

電 話：(075) 353-9163

FAX：(075) 353-9101